

**製品名: PI3 キナーゼ p110 $\beta$  ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21049**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:123kD;Observed MW:110kD

**抗原情報**

遺伝子名	PIK3CB
別名	PIK3C1
遺伝子 ID	5291.0
SwissProt ID	P42338
免疫原	ヒト PI3 キナーゼ p110 ベータの合成ペプチド

**背景**

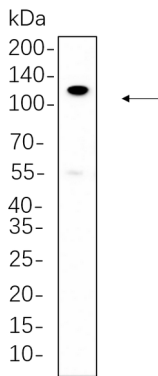
細胞局在: 細胞質。核。核への局在と輸送には PIK3R2 との相互作用が必要である。この遺伝子は、ホスホイノシチド 3 キナーゼ

(PI3K) の触媒サブユニットのアイソフォームをコードしている。これらのキナーゼは、真核細胞の外膜上の受容体を介したシグナル伝達経路において重要であり、その触媒サブユニットにちなんで命名されている。コードされているタンパク質は、PI3Kbeta (PI3KB) の触媒サブユニットである。PI3KB は、損傷部位または感染部位で免疫複合体と結合した好中球の活性化経路の一部であることが示されている。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2011年12月]

## 研究分野

-

## 画像データ



RT-4 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜を PI3-キナーゼ p110 $\beta$  ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロットニングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。